



「過去の感情を未来の動作で書き換える」 —上下に画面をスワイプすることで感情を修正できることが明らかに！—

概要

九州大学大学院人間環境学府博士後期課程 1 年／独立行政法人日本学術振興会特別研究員の佐々木 恭志郎、基幹教育院の山田祐樹准教授、大学院人間環境学研究院の三浦佳世教授らの研究グループは、人間の感情に関する新現象を発見しました。その現象とは、画像を見て生じた感情が、直後に画面を上をスワイプすると快くなり、下をスワイプすると不快になるというものです。この現象は、人間はある一定の短い時間範囲内に起こる出来事をまとめて把握し、そのまとまりに基づいて後付的に感情が生じていることを示唆しています。

本研究成果は、英国王立協会が刊行する科学雑誌『Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences』に 2015 年 3 月 25 日（水）午前 8 時（英国時間）に掲載されました。

■背景

我々は、嬉しいときたびたび手を上げます。例えば、ホームランを打った選手がガッツポーズをしているところや選挙に当選した政治家が万歳をしているのを見たことがあると思います。逆に、我々は落ち込んだときに思わず下を向いてしまうことがあると思います。このように身体の動作は感情と関連しており、上向きの動作は快感情と、下向きの動作は不快感情と結びついています。



もういやだ・・・
何もかも終わった・・・

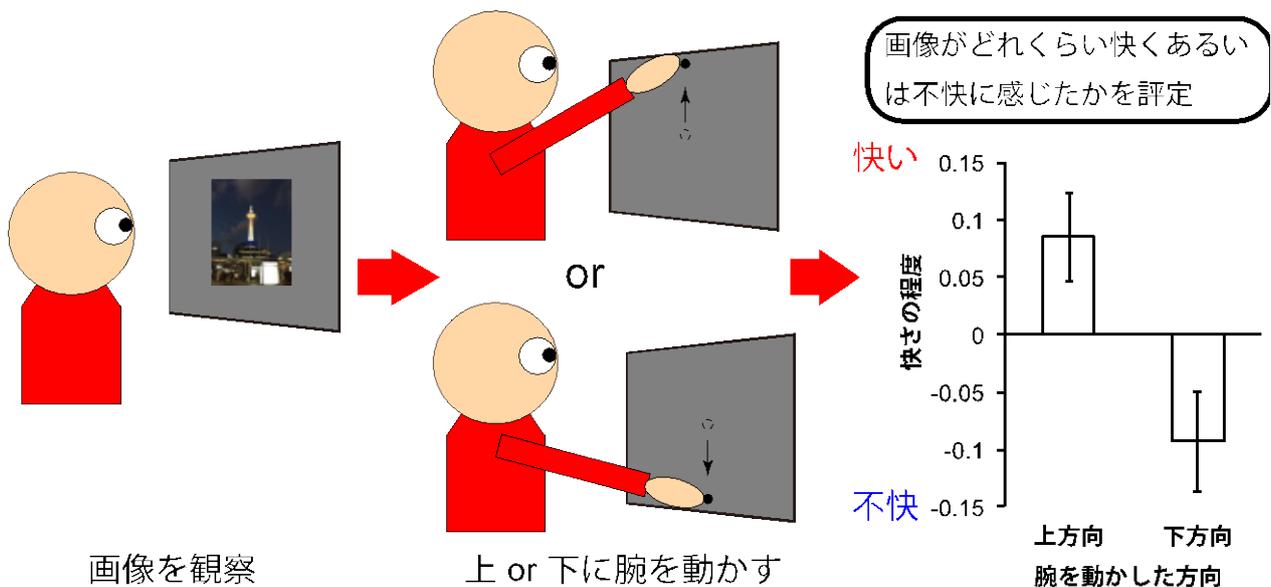


これまでの研究で、このような身体動作が動作中や動作後の感情処理に影響を与えることは明らかにされてきました。しかしながら、身体動作が直前の感情処理に遡って影響を与えるかについてはわかっていませんでした。

■内容

本研究では、心理学実験を通じ、画像を観察することにより喚起された感情が、画像観察直後の腕の運動によって書き換わることを明らかにしました。実験では、まず実験参加者はタッチパネルディスプレイ上に呈示された様々な感情を喚起する画像を観察しました。そして、画像が消えた直後に画面中央に黒円が呈示され、参加者に、画面の表示に従ってその黒円を即座に画面上部あるいは下部に指でスワイプし移動させることを求めました。つまり上にスワイプする場合は腕を上げることに、下にスワイプする場合は腕を下げることとなります。その後、先ほどの画像がどの程度快く感じたか、あるいはどの程度不快に感じたかを参加者は評定しました。その結果、画像を見た直後に上にスワイプした場合には画像をより快く、下にスワイプした場合には画像をより不快に画像を評定することが明らかになりました。つまり、腕の動作が、直前に観察した画像により生じた感情を、時間的に遡って書き換えたということです。しかし、この現象は画像を見て 2 秒後にスワイプしても起きませんでした。したがってこの現

象は、ある出来事によって喚起される感情がその出来事だけで決まるのではなく、その出来事と時間的に近接する様々な関連情報を統合することで後付的に形成されていることを示唆しています。



■本研究の意義と今後の展開

本研究の結果、人間の感情が身体運動によって後から修正可能であることが実証されました。このことは、我々の心に浮かぶ感情は現在の出来事だけで決まっているのではなく、ある一定の短い時間の範囲内に起こる複数の出来事（本研究においては画像の観察と後の身体動作）をまとめることで形成されているという点で、一般的・科学的常識を覆す大きな意義を持ちます。本知見は、心の「いま」が過去と未来の両方に支えられて成り立っていることを示す重要な証拠となることが期待されます。さらに本現象は極めて容易に実装することが可能であるため、身体状態や身体運動から感情状態を調整するような新たな情報提示、展示、ゲーム・遊び、精神的健康の維持といった様々な目的での幅広い応用も期待されます。

■より詳細な研究内容について

http://www.psychology.kyushu-u.ac.jp/Postdiction_PR_Sasaki.pdf

■著者

佐々木 恭志郎 九州大学大学院人間環境学府 博士後期課程 1 年 / 日本学術振興会特別研究員
山田 祐樹 九州大学基幹教育院 准教授
三浦 佳世 九州大学大学院人間環境学研究院 教授

■論文情報

タイトル : Post-determined emotion: motor action retrospectively modulates emotional valence of visual images

(感情の後付け：運動動作は画像の感情価を逆及的に変容させる)

誌名 : Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences

巻号数 : 1805(282)

文献 URL : <http://dx.doi.org/10.1098/rspb.2014.0690>

■研究助成

- 平成 26 年度～平成 28 年度(予定) 日本学術振興会特別研究員奨励費 課題番号 : 266025 研究課題名「身体化認知の機能的メカニズムの解明」(研究代表者 : 佐々木恭志郎)
- 平成 26 年度～平成 27 年度(予定) 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦の萌芽研究 課題番号 : 26540067 研究課題名「気持ち悪さの認知的メカニズム」(研究代表者 : 山田祐樹)

- 平成 26 年度 九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト 整理番号：26806 研究課題名「予測的・後測的な空間認識に関する認知心理学的機序の解明」(研究代表者：山田祐樹)
- 平成 26 年度 九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト 整理番号：26307 研究課題名「空間の認知と評価に及ぼす感情・感性評価・価値判断」(研究代表者：三浦佳世)

【お問い合わせ】

九州大学大学院人間環境学府 博士課程 1 年

日本学術振興会特別研究員

佐々木 恭志郎(ささき きょうしろう)

TEL/FAX : 092-642-2418

Mail : k-ssk@kyudai.jp